



空襲で市街地が焼け野原に（共愛学園提供）

平和の誓い次世代へ

戦争の悲惨を忘れずに

昭和二十年八月五日、本市は空襲を受け、多くの犠牲者を出しました。五十九年が過ぎ、戦争を体験した人も少なくなりましたが、戦争の悲惨さを次世代へ引き継ぎ、悲劇を繰り返さぬようにしなければなりません。市役所では前橋大空襲パネル展を開催。亡くなった人の冥福を祈り、戦争のない平和な社会の実現を考えましょう。問い合わせは生活課 890 6236へ。

わたしの体験記



前橋大空襲の 記憶

星野信次さん
江田町
81歳

八月五日の夜、あの不気味な空襲警報のサイレンが鳴る。わたしは飛び起きて身支度をす。外へ出ると空に火の玉がゆっくり落ちてくる。照明弾だ。とさし今夜はやられると思いつても防空こうなどでは危ないから、逃げた方がいい」とと父母や妹たちをせきたてた。

八月五日の夜、あの不気味な空襲警報のサイレンが鳴る。わたしは飛び起きて身支度をす。外へ出ると空に火の玉がゆっくり落ちてくる。照明弾だ。とさし今夜はやられると思いつても防空こうなどでは危ないから、逃げた方がいい」とと父母や妹たちをせきたてた。妹の一人は心臓を患い、「ここで死んでもいい」と動こうともしない。B29の爆音に迫り掛ければ、病身の母を自転車の後ろに乗せて、家族で古市前と呼ばれる辺りの田んぼの中へ避難。わたしだけ再び家へとつて返し、一人残してきた妹を嫌がるのを無理に自転車で乗せみんなの所まで来た。家を見に再度引き返すと、近くの石油タンクや民家は燃え、人々の叫び声が聞こえる。やがて空襲警報解除のサイレンが鳴り家族を迎えに。幸いにも皆無事で家も難を免れることができたのです。

本市が空襲を受けたのは五十九年前、昭和二十年の八月五日。翌日に広島市、四日後には長崎市へ原子爆弾が投下されました。そして十五日、日本は無条件降伏し、終戦を迎えたのです。

前橋大空襲で535人の死者

八月五日午後十時三十分、前橋大空襲は照明弾の投下で始まり、続いて岩神町に焼夷弾が落とされ、県立第一工業高校（現在の三中付近）と共愛女学校が炎上。市中心部の空襲は一時五分にも及びました。こうした空襲は九十二機のB29爆撃機によるもの。六百九十一の焼夷弾、一七・六の破砕爆弾、一五・二の一般爆弾が投下され、受けた被害は死者五百三十五人、負傷者六百人。被災戸数一万四千四百六十戸、被災人口は六万七千三百三十八人（全市人口の六五・二％）でした。

特に多くの死者を出した所は、広瀬川比刀根橋脇の防空こうと細ヶ沢十字路（住吉町一丁目）の水路でした。この防空こう周辺は火の海となり、中にいた人が窒息死。また市外へ逃れる人が猛火に巻かれ、水路へ逃げながら亡くなりました。

周辺町村も空襲に

昭和二十九年以降に本市と合併した周辺町村にも、空襲の被害が及びました。上川淵・下川淵・若賀・桂萱・東・元総社・

冥福祈り 黙とうを

前橋大空襲や戦争で亡くなった人たちの冥福を祈り、原爆記念日などには黙とうをささげましょう。

広島原爆記念日＝8月6日
午前8時15分 長崎原爆記念日＝8月9日 午前11時2分 戦没者を追悼し平和を祈念する日＝8月15日 正午

ご覧ください

大空襲パネル展

前橋大空襲などのパネル展を開催。平和の大切さを、もう一度考えましょう。
日時「8月9日、13日、午前8時30分～午後5時15分 会場「市役所1階市民ロビー」内容「市民から寄せられた前橋大空襲など戦争の体験文と写真パネル二十五枚を展示

総社・南橋・木瀬（永明・城南の一部）の各地区を合計すると、死者四十七人、負傷者百十四人、被災戸数五百一十一戸でした。前橋全体が焦土と化し、多くの犠牲を出したこの悲劇を二度と繰り返さぬよう、戦争の悲惨さを次世代へ引き継ぎましょう。